

『新しいがんスクリーニング検査』

天塩国保病院検査室です。がん検診に適した検査を紹介いたします。

1981年から現在まで、死亡原因1位のがんによって年間33万人の方が亡くなられています。また、がんの罹患率は、男性62%、女性47%と約2人に1人が罹患することになります。

どこのがんが多いかと言いますと、男性は、胃↓肺↓前立腺↓大腸↓肝臓の順、女性は、乳↓大腸↓胃↓肺↓子宮の順です。

今までのがん検診では、がんごとに画像診断を中心に受け、時間がかかることや、辛いことなどの理由で受けずじまいの方も多いため、せめて優先的によの検査を受けた方がよいのかの指標として、今回は、がんのスクリーニング検査の紹介をします。

この検査は、血液中のアミノ酸濃度を測定し、アミノ酸のバランスを統計的に解析することで、がん罹患しているリスクを評価する新しいアプローチの検査方法です。この方法をアミノインデックスがんスクリーニング検査（AICS）といいます。健康な人の血液中のアミノ酸濃度は、それぞれ一定に保たれるようにコントロールされていますが、さまざまな病

気になると、一定に保たれている血液中のアミノ酸濃度のバランスが変化することが報告されています。AICSは、この性質を利用して、血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度バランスの違いを統計的に解析することで、がん罹患しているリスクを評価する新しい方法です。

AICSは、1回5mlの採血で複数のがんを同時に検査することができます。各早期がんにも高い感度を示すデータもあります。



■AICSの検査対象となるがんの種類

●男性では：胃がん、肺がん、大

腸がん、前立腺がんの4種類
●女性では：胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、卵巣がんの5種類

ただし、この検査は、対象年齢以外の方は、評価の対象外になります。

※日本人の対象年齢

- 胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん（25歳～90歳）
- 前立腺がん（41歳～90歳）
- 宮がん・卵巣がん（20歳～90歳）

AICSはそれぞれのがんについて、がんの確率を0.0～10.0の数値で報告します。リスクの傾向は数値が高いほど、がんの可能性が高くなります。また、このAICS値から判断の目安として、ランクA・ランクB・ランクCの3段階で表示されます。

がんであるリスクの倍率（一般の方を1.0とした場合）

- ランクA【0.3～0.7倍】
 - ランクB【1.3～2.1倍】
 - ランクC【4.0～11.6倍】
- ランクCの評価になった場合には、そのがんに対しての精密検査が必要となります。この検査は、あくまでがんであるリスクを評価

する検査で、判断する検査ではありません。採血時点でのリスク評価であって生涯に渡ってのリスク予測ではありません。



■受診時の注意点

AICSは基本的に症状がない方を対象にした検査です。明らかに症状がある方は、その症状に応じた検査治療が必要になりますので、医療機関を必ず受診しましょう。この検査には健康保険は適用されませんので健診として受けてください。

※検査には、事前の予約が必要です。検査前の注意事項もあります。天塩町立国民健康保険病院検査室にご相談ください。

（文責 佐藤 清）

